

# 多様な人材が融合、長く無理なく働き続けられる体制づくり

## のうじくみあいほうじん くによしかっせいかせんたー 農事組合法人 国吉活性化センター

※2025年現在



高密度播種苗移植（密苗）により苗箱数を削減

### ■組織情報

所在地	高岡市国吉地区
設立年次	2006年10月
代表者	代表理事 金守 功平
構成員	理事 4人
社員等	従業員（臨時雇用）約10人

### 組織の概要

当該組織が所在する国吉地区は、高岡市の西部に広がる西山丘陵にあり、里山と田園の美しい風景が広がり、ゆったりとした時間が流れている。

2001年（平成13年）、岩坪地区の集団転作を行うために設立した任意組合「国吉農地活性化センター」をもとに、2006年（平成18年）「農事組合法人国吉活性化センター」を設立。現在、地区全体として農地の集積・集約を進め、水稻栽培を中心に耕作受託を行い、耕作放棄地及び遊休農地の発生防止に取り組んでいる。

### 生産状況

●経営耕地面積	80ha
●水稻	47ha
●大麦	31ha
●ねぎ、にんじん、こまつな	0.2ha

### 主な設備

●トラクター	4台
●コンバイン	3台
●田植機	2台
●ドローン	1台
●ハウス	11棟

### 特徴的な取組及び成果

- 国吉活性化センターでは、地域全体で耕作放棄地を生じさせないよう、**地区内の別農事組合法人と連携・分担し**、管理しやすい法人が新たな受託地を引き受ける仕組みを構築している。現在、国吉地区200haのうち80haで水稻を中心に営農している。
- 作業は地域住民による約10名のアルバイトグループが大きな役割を果たしており、草刈、水管理、畦塗り、田植え、稲刈りなどを作業別に編成して効率化している。代表理事が適材適所で人員配置を行い、対応が難しい作業は理事が補完することで、地域の力を生かした分業体制を整えている。また、従事者に高齢者が多いため、シフト管理や日々のコミュニケーションを重視し、健康に配慮した労務管理を進め**地域で働き続けられる環境づくり**に取り組んでいる。
- スマート農業の導入にも積極的で、営農支援システムでほ場データを一元管理し、作業計画や進捗の共有によって作業効率を高めている。GPS搭載のトラクター2台の運用、ドローンでの農薬空中散布、湛水直播や密苗技術の採用により、**作業負担の軽減と生産性向上**につなげている。
- 国吉地区の人の好きや温かい地域性に惹かれ就労した代表理事の金守氏や「緑のふるさと協力隊」から就農した中川氏は定着して理事として活躍しており、**外部人材と地域住民が融合した法人運営**という点でも成果をあげている。

### 今後の目標

- 現在の作業員の中心は定年後の世代であり、将来の労働力確保が重要な課題となっている。このため、若手人材や女性作業員の参画を促し、**多様な人材が長く、無理なく働き続けられる体制づくり**を進める。
- 地域全体の営農基盤を確保するため、**遊休地を生じさせない高い農地利用率の維持**を目標とし、条件不利地も含め、地域の農地を面的に管理していく。
- 湿田、水路の劣化、細分化された区画と多くの地権者の存在など、中山間地域ならではの制約に加え、近年は渇水や高温など気候変動の影響も大きい。こうした課題の一つひとつ向き合い、**地域全体の農地を将来にわたって守る取組を継続**するとともに、営農環境の着実な改善を図る。